

特集

薬のエキスパートに学ぶ 見逃されやすい 副作用・相互作用

本誌読者の救急医の先生方は、例えば頭痛や腹痛、悪心、嘔吐などの比較的軽い症状を訴えるケースから、心肺停止や脳卒中など直接命にかかわるケースまで、救急に訪れる実にさまざまな患者に対して、その訴えや他覚的所見から迅速、そして確実に診断・治療を行っているものと考えます。しかしながら、患者の訴えをよく聞くと/診ると、いずれも薬の副作用としても散見されるものばかり、というケースもあり、果たしてそれが原疾患によるものなのか、それとも常用薬によるものなのか、あるいはつい先程投与した治療薬による反応なのか、判断に迷うことも多いでしょう。そのような救急の現場だからこそ、既往歴や常用薬、アレルギー歴や副作用歴などについて、薬剤師も協働して確認・対処することが非常に重要であると、改めて気づかされます。

このような背景をふまえ今号の『救急医学』では、救急症候と間違えやすい薬の副作用や、決して見逃してはならない重篤な副作用・相互作用、さらには臓器機能の低下や亢進に影響を受ける薬の作用について、薬の専門家たる薬剤師が詳細に解説することで、救急医や現場スタッフの“引き出し”の数を増やすことに寄与すべく、「薬のエキスパートに学ぶ 見逃されやすい副作用・相互作用」と題した特集を企画いたしました。

本誌としては珍しい“オール薬剤師”の執筆陣による、各薬剤の副作用・相互作用の特徴・機序・対策などの丁寧な解説が、救急医の先生方の日々の臨床に役立つことを期待しております。そして、それがひいては薬剤師と救急医のより有意義な連携・協働につながっていくことを願って、本特集をお届けいたします。

【特集企画ゲストエディター】

日本赤十字社医療センター薬剤部部長 細谷 治

埼玉医科大学病院薬剤部係長 鈴木 善樹